

# 新潟県立村上桜ヶ丘高等学校（新潟県）

GLOBALG.A.P. コメ 2021年取得  
えだまめ 2022年取得

所在地：新潟県村上市飯野桜ヶ丘10-25

面積：約0.5ha（田）、約0.3ha（畑）

応募区分：人材育成の部

構成員：46名



「GAPで救える命がある」報告、巻頭ページ

## ▼GAPに取り組んだきっかけ

- 令和2年、学校を挙げて地域農業の実態を調査していく中で、高齢化の進展、農作業事故の実態を知ったことがきっかけで、農作業の安全確保、誰もが参入できる農業を目指してGAPの学習を開始

## ▼GAPの継続に向けた取組

- 同校生徒が住む集落でのトラクターの横転による高齢農業者の死亡事故をきっかけに、「農作業事故ゼロプロジェクト」を校内に立ち上げ、農作業安全の専門家等の指導を受けながらGAPの知識を生かしたアンケートを作成し、地域の農業者を対象に調査を実施

⇒アンケートシート570枚以上回収し、「GAPで救える命がある」を取りまとめ

- 生徒一人一人に導入されているタブレット端末の営農管理ソフトウェアを活用し、生徒が作業記録を入力し、生徒・教師間で作業の進捗状況をリアルタイムに共有
- 農場実習において、生徒間でGAPの取組のスムーズな引継ぎが行われるよう時間割を調整し、3年生のGAPに基づく農場内での行動を2年生が身近で習得できるよう配慮

## ▼生産効率の向上に向けた取組とその効果

- IPMに取り組み、県のIPM実践指標を活用した栽培管理や、地域の病害虫発生予察情報を確認し、ほ場の病害虫の発生状況をモニタリング  
⇒慣行比で農薬散布量（成分量換算）を約2割減
- 散布した農薬のドリフトを抑えるため、気象観測装置を新たに導入し、風速3m/s以上の時は農薬等の散布を行わないことを徹底

## ▼波及効果

- 同校で生産されたお米「岩船産コシヒカリ」が村上市のふるさと納税の返礼品に採用
- 「GAPで救える命がある」を学校の学園祭やJAの生産部会、GAPの国際会議等で発表し、成果の普及に努める



生徒によるアンケート調査の様子



←「令和4年度農作業安全ポスターデザインコンテスト」で農林水産大臣賞を受賞（同校生徒）